

おわりに

ニホンジカによる森林生態系被害は、2000年代になってその被害面積が急激に拡大したとともに、森林生態系の不可逆的変化が危惧されるほど、その被害の深刻化が増してきています。今や日本の森林管理上の最も大きな課題の一つといっても過言ではないと思われます。その一方で、被害の全体像の把握や被害対策の取り組みについては不十分な対応しかできていないのみならず、このような深刻な被害が発生していること自体が社会の中で未だ十分に認識されていない状況にあります。

このような状況の中、森林動物研究センターでは、被害の全体像の把握や被害対策について模索し、またこの問題が県民に広く周知されるよう努力してきました。今回のモノグラフは、2012年3月に発刊した兵庫ワイルドライフモノグラフ4号「兵庫県におけるニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術」の続編となります。前回のモノグラフの刊行後の新たな研究成果をできる限り盛り込むことで、この問題に対する当センターの現在の到達点を示すことを目的の一つとしました。

当研究センターは発足以来10年が経ちましたが、この期間、シカによる森林生態系被害のモニタリング手法を確立し、さらにはモニタリング体制を整備することができました。これによりシカの密度指標のモニタリング・データとの関係解析が可能となり、その結果、森林生態系保全を目的にシカの管理目標値を設定できるところまで保護管理の体制が進展しました。今後の大きな目標としましては、既に植生が衰退している地域を対象に、どのように植生の復元を図っていくか、その道筋をつけることが挙げられます。

最後になりましたが、本モノグラフが兵庫県の県民の皆様、行政関係の皆様、或いは他府県の皆様の何かのお役に立つことができることを、執筆者一同、希望しております。

責任編集者 藤木大介

兵庫県森林動物研究センター
兵庫県ワイルドライフモノグラフ 9号
兵庫県における
ニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術Ⅱ
2017年3月30日 印刷
2017年3月30日 発行
編集・発行 兵庫県森林動物研究センター
〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940
印刷 きくもとグラフィックス株式会社

兵庫県におけるニホンジカによる森林生態系被害の把握と保全技術 II

兵庫県森林動物研究センター 兵庫ワイルドライフモノグラフ 9号



〒669-3842 丹波市青垣町沢野 940

TEL 0795-80-5500 FAX 0795-80-5506

940 Sawano, Aogaki, Tanba, Hyogo, Japan 669-3842

Wildlife Management Research Center, Hyogo
Wildlife Monograph of Hyogo, No.9

Assessments and technologies for conservation of forest ecosystem
under overabundance of sika deer in Hyogo Prefecture: part II

28 農 ① 1-008A4